

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月31日
研究・研修課題名	本院の輸血医療を第三者の視点から点検する
研究・研修組織名(所属)	輸血部
研究・研修責任者名(所属)	兒玉 るみ(輸血部)
研究・研修実施者名(所属)	兒玉 るみ(輸血部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	兒玉 るみ(輸血部)
学会名(会期・場所)、認定名等	輸血機能評価認定施設(I&A制度認定施設)更新
演題名・認証交付元等	日本輸血・細胞治療学会
取得日・認定期間等	2020.04.01から5年間(見込み)
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

輸血医療は改正薬事法、血液法により、安全の保証と適正使用が求められている。厚生労働省より「適正輸血療法の指針」、「血液製剤保管管理マニュアル」、「自己血輸血：採血および保管管理マニュアル」などが出され、これらのマニュアルに従って、各施設で安全で有効な輸血療法が実施されることが期待されている。

日本輸血・細胞治療学会では各施設における輸血医療がこれらの指針などに則って適正かつ安全に行なわれていることを第三者として点検と認証を行なうI&Aを実施している。本院においては平成17年2月に初めてI&Aを受審、平成18年4月認証を取得した。今回3回目の更新時期となり、引き続き適正で安全な輸血医療を目指す。

② 方法

令和2年3月19日に2名の視察員のもと下記の内容で受審した。

時間	視察場所	視察内容
10:00-10:15	A病棟2階「さくら」	視察員および当院担当者挨拶
10:15-10:45		視察員 打ち合わせ(書面審議等)
10:45-12:00	ICU・C8病棟 時間余れば輸血部へ	病棟視察(病棟における輸血実施の記録、保管の点検など)
12:00-13:00		昼食
13:00-14:15	輸血部	輸血部視察(マニュアル、記録、検査室、保管庫の点検など)
14:15-14:45	A病棟2階「さくら」	視察員 総評の打ち合わせ
14:45-15:00		総評および補足質問
15:00		挨拶後終了

③成果

正式な視察報告書はまだできていないが、当日の口頭での総評を下記にまとめた。今後対応し改善する。

I&A 総評

全体としての問題点

- マニュアルは整備してあるが、規則が整備されていない。

輸血管理体制

- 輸血部門会議と院内輸血監査委員会が混同されているので位置づけをはっきりすること。
- 輸血部会規則の審議内容にその他輸血適正化に関することとあるが、輸血適正化を推進するとした方がよい。

製剤管理

- 使用計画を20年間保存するという規約がないので明文化すること。
- 毎日の点検者の名称が適切ではない。

輸血検査

- コンピュータクロスマッチを行っている施設は輸血用血液製剤の血液型再確認をすることとなっているが、オンライン化することが望ましい。

輸血実施

- 輸血準備を1回1患者にすることについて、文書の明文化をすること。

副作用の管理

- 報告体制について、ポケットマニュアルに記載されているので問題無いと思うが、文書化をすること。
- 外観確認について、輸血部門システムには記載するところがあるが、カルテに記載するところが無いので、チェックボックスでチェックを入れられるような仕組みを作るのが望ましい。

使用済みバックの回収

- 病棟での保管、輸血部での保管が困難状況ではあるが、検討して欲しい。

自己血の採血

- 自己血輸血についての同意書はあるが、自己血採血に関する同意書、説明書がない。